

古書のたのしみ（令和七年四月）

土屋 博

一「頭書訓讀 古状揃精注鈔 全」

（浪華文精堂蔵、天保十四年孟春、五三丁）

古書價格五百圓也。天保十四年は西暦一八四三年なり。保存状態、奇蹟的に頗るよし。

そもそも、「古状揃」の最初期の寫本は一六二五年のものとせられ、近世に流通したるものとしては、「新板古状揃」（二六四九年）挙げらるる由。平家物語を中心とする往来物は、素読、手習ひの恰好の教材なりし由にて、寺子屋時代を通じて、明治初期の藩校に到るまで、「古状揃」は長らく教材として大いに重寶せられたるものなり。

本書の内容は、今川壁書（今川了俊愚息仲秋に對し制詞の條條）、初登山、腰越状、義経含状、辨慶状、熊谷状、経盛返状、曾我状、同返状。



二「頭書訓讀 古状揃精注鈔 全」

（浪華文精堂蔵、天保十四年七月、五三丁）

古書價格八百圓也。同一古書を同時に二冊購入することは滅多に無きことなれど、安價なれば敢て購入せり。



三「文久新刻 古状揃繪抄 全」 槐亭賀全著

（東都書肆文江堂梓、五二丁）

古書價格五百圓也。繪入り解説書なり。



四「文久新板 實語教童子教繪鈔 全」槐亭賀全著述

(東都書肆文江堂梓、二八丁)

古書價格五百圓也。實語教九十六句は貴族の手にて、童子教三百三拾句はやや遅れて中世前期に僧侶の手により作られたるものと目さる。寺子屋、家庭にて道德用往来物として普及せり。

実語教の冒頭部分は、以下の如し。「山高きが故に貴からず、樹有るを以て貴しとす。人肥えたるが故に貴からず。」は、平安末期より明治初期まで普及せし庶民向けの初等教科書なり。童子教(夫れ貴人の前に居ては顕露に立つことを得ず。道路に遇うては跪いて過ぎよ。召すことあらば敬つて承れ)と。



五「繪入訓讀 實語教童子教繪抄 全」近澤幸山先生選

(東都玉養堂蔵板、五三丁)

古書價格五百圓也。近藤幸山の序文は弘化四年(一八四七年)のもの。



六「元治新板 庭訓往來繪抄 上」 槐亭賀全著

(東都書肆文江堂梓、五五丁)

古書價格五百圓也。庭訓(ていきん)とは、孔子、息子の鯉に對し庭にて詩經・禮記を學ぶべきことを教へたる故事に由來す。

「庭訓往來」は南北朝末期乃至室町時代の武家の著と推測せられ、僧玄惠の書なりとも傳ふ。我が國書簡文の典範とせられ、一月新年の會、二月詩歌の會、三月地方大名の館造、四月領國の繁榮、五月大名高家の饗応、六月盜賊討伐出陣、七月遊伎會、八月訴訟、九月大法會、十月大歲、十一月病氣治療法、十二月地方行政を話題とす。本書上卷は一月より六月までの書狀を輯録す。



七「庭訓往來繪抄 下」 槐亭賀全著

(東都吉田屋文三郎板、一〇八丁)

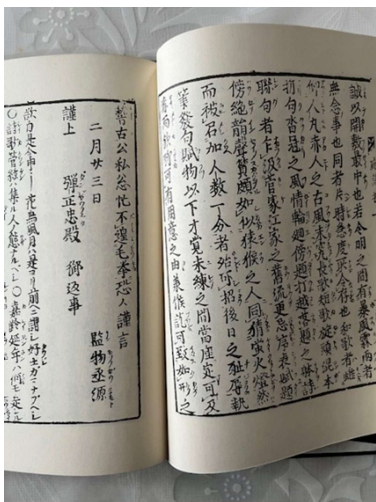
古書價格五百圓也。本書下卷には、七月以降十二月までの書狀を輯録す。



八「庭訓往來抄」

(すみや書房、寛永八年版の昭和四十五年復刻)

古書價格五百圓也。寛永八年は西曆一六三一年なり。



九「山陽先生題跋 全」門人加賀児玉慎士敬輯録

（出版人大坂府平民田中太右衛門、一五丁+二二丁）

古書價格千百圓也。卷上は、題米書擬古帖、跋趙松雪帖など三十五篇、卷下は、五十四篇を輯録す。



十「頭書問答 日本略史 全二冊」文部省御蔵版、松山喜輔編輯

（京都郁文堂、明治十一年發兌、上卷三五丁、下卷五七丁）

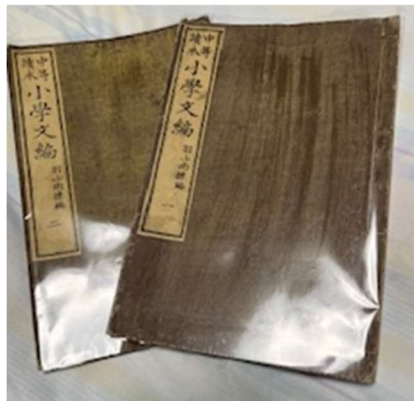
古書價格三百圓也。木村正辭編、那珂通高訂。上卷は、第一代神武天皇より第七十一代後冷泉天皇まで。下卷は第七十二代後三条天皇より第百二十二代今上天皇まで。末尾に曰く、「今上天皇は孝明天皇の子なり。大將軍慶喜職を辭す。是より天皇萬機を親裁し封建を改めて郡縣と為す。江戸を東京と稱し以て皇居とす。頼朝朝府を鎌倉に開きしより明治元年戊辰に至るまで凡そ六百八十三年にして、王政復古は神武天皇元年辛酉より、今明治八年に至るまで凡そ二千五百三十五年なり。」と。



十一「中等讀本 小學文編 一、二」羽山尚徳編

(東京光風社、明治十六年刊、一卷三〇丁、二卷三二丁)

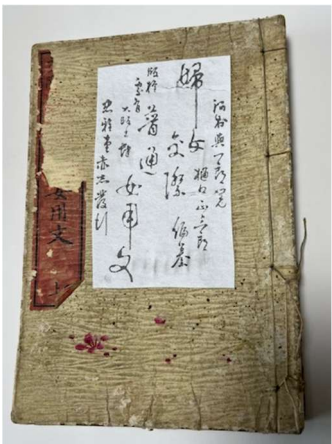
二冊揃古書價格六百圓也。例言に曰く、「纂むる処の紀事は先哲の善行を主とし讀む者をして其徳性を涵養し愛國の志氣を感發せしむることを期す」と。



十二「婦女交際 普通女用文 卷之上」河村興一郎閱、樋口正三朗編纂

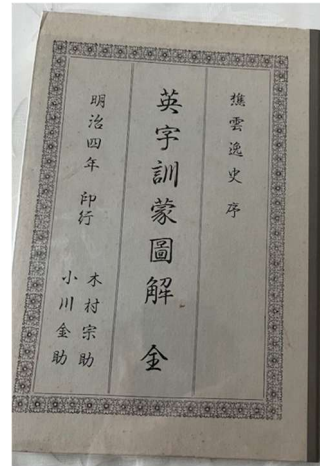
(大阪書肆忠雅堂) 百人一首全文と其の人物畫を含む。

古書價格五百圓也。



十三「明治四年印行 英字訓蒙圖解 全」

(神田外語、一九九三年復刻) 古書價格五百圓也。明治初期の和英辭典を見るにつけ、先人の苦勞偲ばゆ。



十四「和英中辭林」佐久間信恭編

（郁文舎、明治三十九年改版第一版、正價金九拾錢、九三〇頁）
古書價格五百圓也。初版は明治三十七年。佐久間信恭（一八六一年生れ、一九二三年歿）は、東京英語學候及び札幌農學校に學ぶ。（内村、新渡戸の一年下）第五高等學校教授。



十五「新和英辭典」法學博士和田垣謙三著

（大倉書店、明治四十二年四十六版、九四九頁）
古書價格三百圓也。初版は明治三十五年。和田垣謙三（一八六〇年生れ、一九一九年歿）は、東京帝大卒業後ケンブリッジ、ベルリン大學に留學。帝國大學法科大學、農科大學教授を歴任す。



十六「候文體口語體 書簡文」早稻田文學士内山春風著

（光世館、明治四十三年刊、定價四拾錢、三〇〇頁）

古書價格三百圓也。本の所有者は歩兵五十一聯隊上等兵なりき。



十七「益軒先生養生訓」宮城伊兵衛編

(昭文堂、大正十五年刊、定價金壹圓、二三三頁)

古書價格三百圓也。益軒曰く、「老いては脾胃の氣衰へ弱くなる。食すくなきに宜し。多食するは危し。老人の頓死するは十に九は皆食傷なり。若くして脾胃強きときにならひて食過ぐれば、消化しがたく元氣ふさがり病おこりて死す」と。



十八「三訂増補 新字鑑」文學博士鹽谷溫編

(國書刊行會、昭和五十五年四三一版、定價五千八百圓、本文二二五二頁)

古書價格二千四百圓也。初版は昭和十四年、漢和辞典の歴史に其の名を刻む大ベストセラー(四三一版)の名著なり。學生版のみ手許に置きしかど、待望の本体を遂に入手するに到れり。



十九「おくのほそ道解釈事典 諸説一覽」堀切実編

（東京堂出版、平成十五年刊、二七四頁）

古書價格五百圓也。「月日は百代の過客」の「月日」は、「月」と「日」の二つに分けて捉へ、天体の月の運行と日の運行も視野に入るる深き解釈ある由。



（令和四年五月十四日受附）